

風土記の丘の花だより¹⁰²

今、そしてこれから見られる植物(2021年9月11日)

日が高くなるとまだまだ暑いですが、さすがに朝夕は涼しくなってきました。秋を感じます。もう少しでハギの花も咲きそろうことでしょう。今年のお月見は9月21日(火)です。この日、当館は休館です。



ハギに先がけて、又スビトハギが咲いています。名前に「ハギ」と付きますが、ハギの仲間ではありません。これまで何度か紹介したと思いますが、種が衣服にくっつく「ひつつき虫」の一つです。花は白にピンクが混じり、大きさは3ミリほどです。そんな花が長い花茎にたくさん付きます。葉は葉柄に3枚が一組になって付きます。



これより鮮やかなピンク色の花を咲かせるのは、外来種のアレチ又スビトハギです。花は少し大きめです。葉は同じく3枚一組ですが、又スビトハギより細長いです。秋が深まり種ができると形が全く異なるので実だけでも区別できます。こちらもひつつき虫ですが、数も多く、くっつく力も強いので、又スビトハギより、タチが悪いです。花だけ見ていれば、どちらも秋の風情を感じさせる可愛い花です。愛でてください。



3つ目もハギですが、これは上の2つと違って、ほんとうの「ハギ・萩」です。名前はケハギです。名前のおり茎などに細かい毛がたくさん生えています。旧谷村家住宅に上っていく坂の入り口左に一株だけ生えて(植えられて?)います。



ではここまできたら、4つめもハギとつく植物にしますか。ネコハギです。丸く毛深い葉、白い花、そんなことからネコをイメージしたのでしょうか、面白い名前です。この花には花びらのあるものと、無いもの(閉鎖花)があります。時間と根気がある人は、ゆっくり観察してください。一口にハギと言ってもいろいろなハギがありますね。でも、お月見だからと言って、切って持ち帰らないでくださいね。 松下